

# 「土砂災害から学ぶこと」

みどり市立笠懸西小学校 三年 垣内 優翔

ぼくは、テレビを見ている時に、土砂災害のニュースを見かけることがあります。そこには、山がけずられてボコボコになっていたり、家がたくさんのおしつぶされてい  
るえいぞうがながれています。ぼくの家は土砂にまきこまれたことがないから分からないけ  
ど、もし自分の家の近くで同じようなことがおこったら、とてもこわいだろうし、山の近くは  
あぶないと思いました。

ぼくは、お母さんから、今住んでいる家の話を聞いたことがあります。

この家をたてる時、ぼくのお父さんはハザードマップという災害をよそくする地図を使っ  
ていろいろ調べて、土砂災害はもちろん、こう水などのひがいなどにも合わないような場所を  
さがしたそうです。だから、ぼくの家のみわりには山も川もないと聞きました。

いろいろな災害で家がなくなってしまふのは、とてもかなしいし、大へんなことだと思いま  
す。だから、ぼくも大きくなって自分の家をたてる時には、山の近くに家をたてないほうがい  
いと思うし、お父さんみたいにハザードマップで調べたり、お父さんにそうだんしたりしなが  
ら家をたてたいと思います。

それから、土砂災害だけではなく、他の災害がおきた時もまずは「にげる」ことが大切だと  
思います。学校でも、いろいろな場面でのひなん訓練をやっています。なので、これからは今  
までいじょうに一生けんめい取り組みたいと思いました。